

3. 企画展示事業（平成29年度の展覧会）

大津京遷都1350年記念企画展（第74回）「大津の都と白鳳寺院」の結果について

- 【会 期】 平成29年10月7日（土）～11月19日（日） [開館日数38日間]
 【会 場】 大津市歴史博物館 企画展示室A・B
 【主 催】 大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞
 【協 力】 石山寺、近江神宮、園城寺、比叡山延暦寺、湖信会、対馬市、対馬市教育委員会
 【特別協力】 大阪大学日本・東洋美術史研究室
 【後 援】 NHK大津放送局・BBCびわ湖放送・エフエム滋賀、エフエム京都
 【観覧料】 一般1000円（800円） 高大生600円（480円） 小中生200円（160円）
 【展示作品】 228件（うち重要文化財16件）
 【入館者数】 4,124人（うち有料観覧者2,644人 無料観覧者1,480人）
 ◇有料観覧者数 内訳
 個人 一般：1,001人 高大生：94人 小中生：37人
 団体割引 一般：811人 高大生：69人 小中生：31人
 市内（65歳以上）割引：153人 その他割引：23人
 歴博カード会員：425人（計2,644人）
 【関連講座】 10月14日（土） 大津宮を考えるために―継体・天智・聖武―
 講師：細川 修平（彦根市教育委員会主幹） 参加人数 147人
 10月15日（日） 妙傳寺半跏思惟像が三国時代の作とわかるまで
 講師：藤岡 穰（大阪大学大学院教授） 参加人数 106人
 10月22日（日） 大津京と京内寺院
 講師：林 博通（滋賀県立大学名誉教授） 参加人数 78人
 10月28日（土） 壬申の乱と山前
 講師：松浦 俊和（本館前館長） 参加人数 127人
 11月4日（土） 白鳳仏の源流を求めて―菩薩像の着衣形式を中心に―
 講師：岩井 共二（奈良国立博物館学芸部情報サービス室長） 参加人数 104人
 11月5日（日） 埴仏の系譜 一穴太廃寺と崇福寺の埴仏を中心に―
 講師：萩原 哉（武蔵野美術大学講師） 参加人数 87人
 11月11日（土） 大津の都を護る神仏
 講師：葛野 常満（元滋賀県文化財保護課） 参加人数 100人
 11月25日（土） 近江大津宮研究の最前線
 講師：吉水 眞彦（本館前副館長） 参加人数 118人
 12月3日（日） 【現地見学会】 大津宮関連史跡をめぐる ※当初予定11/18は雨天中止
 講師：福庭 万里子（本館学芸員） 参加人数 66人
 11、図録販売数 595冊（会期中）（各A4変形版 160頁オールカラー 価格1,800円）
 12、展覧会の成果と問題点

【内容面】

- ・天智天皇が667年に大津に都を遷してから1350年を記念した企画展。複数の他館で近い内容の展覧会がすでに行われており、それらと差別化を図った。他館では、飛鳥の都や終末期古墳の出土資料を中心に紹介していたが、『日本書紀』の記述によって、内裏に仏殿や百仏、繡仏の存在がうかがえることから、当館では仏教文化色を強く出したものとした。特に市内に複数存在する白鳳寺院から出土した瓦や仏像の断片を数多く展示し、当時の様子を市内出土の現物から感じられるようにした。さらに、同時代の飛鳥の古代寺院の遺物や、7世紀に流行した塑像や埴仏、金銅仏を多く展示し、白鳳文化をイメージしやすいよう工夫した。同時にミニ企画展コーナーでは、第2会場として「都へのまなざし―大津宮の研究と発掘―」を開催し、今までの研究史を紹介することで、謎の多い近江大津宮へのアプローチを紹介した。
- ・今までの展覧会と同様、基礎知識がなければ難解な文化財の理解のために、作品キャプションの一番上に、作品を端的に説明したキャッチフレーズをつけて理解補助とし、好評を得た。

【広報面】

- ・「大津京遷都 1350 年」のキャンペーンの一つとして、びわ湖大津観光協会などが広報を行った。
- ・各協力寺社や湖信会の協力で、チラシとポスターを配布し、観光客に対する広報を行った。

【集客・販売面】

- ・会期中の入館者数のうち有料観覧者数が 2,644 人（カード会員を除く人数は 2,219 人）だった。
- ・図録は、販売分 1,000 冊のうち会期中の販売は 595 冊であった（平成 30 年 3 月 15 日現在、636 冊）。

【反省点と今後の課題】

大津の歴史の中でも、市民が最も高い関心を持つテーマの一つ、近江大津宮を扱った。本年は遷都 1350 年の節目の年であり、大津市の歴史を紹介する当館としてふさわしい展覧会であった。多くの来館者の話やアンケートでは、観覧者にはおおむね好評であったようである。

一方、白鳳時代を代表する宝物を多数展示できたにもかかわらず、それほど集客数を伸ばすことが出来なかった。今後は、より多くの人々が興味を持ってご来館いただけるよう、周知方法について一層の工夫や努力が必要だと考えている。

なお、日本アート評価保存協会から第 5 回秀逸企画賞が授与され、内容と姿勢について他者からの評価を受けた。

13. アンケート結果】（抄） 全体回答者数 733 人

◎大津市歴史博物館への来館回数

- ①初めて：260 人 ②2～4 回：211 人 ③5 回以上：133 人 ④10 回以上：121 人

◎居住地

- ①大津市内：76 人 ②滋賀県内（大津市外）：99 人 ③京都府：147 人 ④その他：211 人

◎年齢

- ①～10 代：29 人 ②20 代：36 人 ③30 代：26 人 ④40 代：64 人 ⑤50 代：118 人

- ⑥60 代：219 人 ⑦70 代：192 人 ⑧80 代以上：44 人

◎展示内容の満足度について。

- ①大変満足：233 人 ②満足：355 人 ③普通：112 人 ④不満：4 人 ⑤大変不満：3 人

◎自由記入欄より感想・意見・要望の一部を内容ごとに分類して抄録（一部中略のある他は原文のまま）

《展示内容について》

- ・一自治体の開催する企画展としては、類を見ない充実した内容だったと思います。京都観光より実に味わい深い歴史探訪でした。（北海道 50 代男性）
- ・期待を大きく上回る内容と規模でおどろき、たのしく見てまわりました。なるほど、と思う借用先に、そちらへ行きたのしみもつくっていただき感謝です。（三重県 50 代女性）
- ・大津の古い歴史の知らなかったことを発見できました。（まだまだ知らないことがあるでしょうが）つぎを楽しみにしています。（大津市 70 代女性）
- ・とても地味だが他ではできないようなユニークな内容であった。滋賀県の廃寺の発掘物が中心であり、考古学的にはとてもおもしろいものであった。特に山ノ神遺跡のシビは印象が強い。美術的にはあまり目立った出品がないので地味に見えるが。（大津市 80 代男性）
- ・韓半島との交流、工人の渡来移住が都の変遷とどう噛み合い、都（毎に）をどう特徴づけたかが、造形を通じて伝わってくるよい展示だったと思います。専門分野の者だけではなく、初心者の方々にも、わかりやすかったのではないかと。（京都府 50 代女性）
- ・廃寺や遺跡がこの滋賀県に多く存在していることを知り、とても勉強になりました。（大阪府 大学生女性）
- ・大津の歴史に思いを馳せ、こんな昔にも様々な文化や技術があつて、たくさんの人々が文化的に暮らしていたのだな、という感慨がありました。当時の都やお寺の様子が何となくイメージされるようで、とても興味深く、歴史のロマンを感じました。大変面白かったです。ありがとうございました。（兵庫県 30 代女性）
- ・大津京（宮）そのものの資料（出土品）の展示と説明（紹介）がほしかった。（大津市 70 代男性）
 - ・よくも悪くも情報てんこもりでした。（京都府 60 代女性）
- ・立派な図録を出されていて、非常に勉強になると思いました。しかし、展示については説明文が長いように感じました。また、展示の流れにストーリー性を若干欠くように思いました。古代寺院をテーマに展示を企画した場合、展示品を単に並べるだけでなく、それにストーリー性をもたせることは難しいことかもしれませんが、古代で廃絶する寺院と、その後も法灯が維持される寺院があるなど、「見せ方」に工夫があればもっとよかったと思います。（兵庫県 40 代男性）

《展示環境・キャプションについて》

- ・全体にみづらかった。説明文は良いが、細部の拡大写真、部分写真をそえてもらえば、もっとわかり易いと思う。(像自身が小さいので後半はつまらなかったです。) 興味深い企画なのに残念な気持ちです。(埼玉県 60 代女性)
- ・相当な歴史通にしかわからない。もっと一般人にわかりやすい説明がほしい。高校生にもわかる程度まで。地図(飛鳥、難波、近江の各遺跡 寺院がわかるもの)、年表が必要。(大津市 70 代男性)
- ・各廃寺の大津市全体の地図で提示された方がいいのでは、市民以外ではわかりにくい。(京都府 60 代女性)
- ・壁面に空間が多くあったと思います。この空間を使ってキャプションの記載内容をもう少し詳しく図解すれば、さらに解り易くなると思います。(草津市 50 代男性)

《広報について》

- ・展示品を広く借りて充実した展覧会でした。もう少し広報があるといいと思いました。もったいない。(大津市 70 代女性)
- ・もっと広く県外に広告したほうが良い。大津祭を観にきてこの企画を知ったので。(京都府 70 代女性)

《その他の要望について》

- ・音声ガイドを作ってもらえるとありがたい。(大津市 80 代男性)
- ・オリジナルグッズを作って欲しかった。(堺市のレプリカとか) (大阪府 30 代男性)
- ・仏教関係の企画展を今後共開いてほしい。いつも内容の濃い展示を楽しみにしております。(愛知県 50 代男性)
- ・次は壬申の乱あるいは恵美押勝の乱の大津・滋賀で企画展をお願いします。(大阪府 40 代女性)

【受賞】

- ・一般社団法人 日本アート評価保存協会(東京都中央区銀座7丁目)の「第5回秀逸企画賞」を受賞。企画展の内容および、当館の長年にわたる地域ゆかりの美術文化を顕彰してきた実績によるもので、他薦により全国20館17企画のなかから選ばれた。平成30年2月20日、東京で行われた授賞式に出席し、表彰状と副賞30万円の授与をうけた。日本経済新聞、京都新聞、読売新聞に記事が掲載され、朝日新聞にも掲載予定。

※日本アート評価保存協会「秀逸企画賞」の趣旨

入場者数によって評価されがちな現在の展覧会について、本当に質の高い、開催趣旨がタイムリーで有意義な展覧会こそ表彰するべきであると考え、年に一回「秀逸企画賞」として表彰するもの。